



© m-appeal world sales US

平成 25 年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業  
日本映画大学 映画・映像アートマネジメント人材養成講座

国際シンポジウム＋映画上映

# 映画と バリアフリーを めぐって



© 2002 TAKAHASHI YOSHITAKA

# 3/15 土

# 13:00 分

[受付開始 12 時 30 分]

日本映画大学  
新百合ヶ丘キャンパス  
4 階大教室

[小田急線・新百合ヶ丘駅北口徒歩 1 分]

入場無料/全席自由席/定員 100 名  
※当日、直接会場へお越しください

[プログラム]

13:00 | 上映①

『愛について語るときに、  
語らないこと』  
(モーリー・スルヤ監督)

15:00 | 討議①

映画から考える  
ユニヴァーサル・デザインの設計

16:30 | 上映②

『AIKI』  
(天願大介監督)

18:45 | 討議②

作り手にとっての  
ユニヴァーサル・デザインの在りかた

[主催]

日本映画大学

[協力]

川崎市アートセンター

川崎市市民ミュージアム

KAWASAKI しんゆり映画祭

アテネ・フランセ文化センター

日活株式会社

シネマトリックス

m-appeal world sales

文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」の一環として本年1月より開講してきた「映画・映像アートマネジメント人材養成講座」の本年度フィナーレとして、2つの討議と映画2作品の上映からなる国際シンポジウム「映画とバリアフリーをめぐって」を開催します。

**討議①** 「映画から考えるユニヴァーサル・デザインの設計」では、映画祭プログラマー、プロデューサー、デザイナーなど、さまざまな立場から映画に携わる方々をお招きして、映画を上映する環境のなかで、バリアフリーの在り方について討議を行います。障害を持つ方々へのケアだけでなく、コミュニティのなかでより多くの人々に開かれた映画の姿について考察を深めていきたいと考えています。

**討議②** 「作り手にとってのユニヴァーサル・デザインの在りかた」では、インドネシアと日本の映画監督をお迎えし、障害者が主人公として登場する互いの作品を取り上げます。主人公のモデルとなった人物やそれを演じる俳優との間でいかに作り手がコミュニケーションを築いたのかがテーマとなるでしょう。

なお、討議の前後に2作品の上映をおこないます。多数の方のご来場をお待ち申し上げております。

## 上映作品



### ■ 愛について語るときに、語らないこと *What They Don't Talk About When They Talk About Love*

[2013年/インドネシア/104分]

監督・脚本: モーリー・スルヤ Mouly Surya

出演: カリナ・サリム Karina Salim ニコラス・サプトラ Nicholas Saputra

世界の映画祭で絶賛を博す、インドネシアの新鋭女性監督モーリー・スルヤの第2作。目の不自由な20歳の少女フィトリの恋と夢を中心に、彼女を取り巻くクラスメイトたちの特別な愛のかたちを優しく見つめる。東京国際映画祭2013正式出品作。

### ■ AIKI *Aiki*

[2002年/日活/119分]

監督・脚本: 天願大介 Daisuke Tengan

出演: 加藤晴彦 Haruhiko Kato ともさかえ Rie Tomosaka 石橋凌 Ryo Ishibashi

交通事故で車椅子の生活となった青年が合気柔術と出会い、さまざまな葛藤を乗り越えて成長していく。主人公のモデルは、車椅子に乗ったまま大東流合気柔術を修業するデンマークの武術家オーレ・キングストン・エンセン。ヴェネチア国際映画祭2002正式出品作。

## パネリスト

### 討議① 映画から考えるユニヴァーサル・デザインの設計



#### ■ リリー・ヒンシュタン Lili Hinstin

1977年生まれ。2001年に映画製作会社レ・フィルム・デュ・ソー・デュ・ティエールを設立、作品プロデューサーに携わったのち、2005年から2009年まで、在ローマ・フランス・アカデミー(ヴァル・メディチ)の映画プログラマーを務める。その後、2010年から2013年まで、フランスのドキュメンタリー映画祭として重要なシネマ・デュ・レアルの副ディレクターを経て、現在ベルフォール国際映画祭作品ディレクター。

#### ■ 山上徹二郎 Tetsujiro Yamagami

株式会社ソグロ代表。記録映画『毎日がアルツハイマー』(12)のバリアフリー版や、性のオープン化をめざす「エロティック・バリアフリー・ムービー (エロバリ)」シリーズを製作。NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター理事長。

#### ■ 磯村歩 Ayumu Isomura

モビリティデザイナー。富士フィルム株式会社のデザイナーとしてさまざまなプロダクトデザインに従事。特にユーザビリティ向上にむけたデザイン開発プロセスの改革に取り組む。現在、株式会社グラフィエ代表取締役。

#### ■ 土田環 Tamaki Tsuchida

日本映画大学准教授

### 討議② 作り手にとってのユニヴァーサル・デザインの在りかた



#### ■ モーリー・スルヤ Mouly Surya

1980年ジャカルタ生まれ。オーストラリアとニュージーランドで学んだのち、2008年『フィクション』で監督デビューし、ジャカルタ国際映画祭で最優秀監督賞を受賞。2010年には東京フィルムメックスのネクスト・マスターズ(現タレント・キャンパス・トーキョー)に参加。『愛について語るときに、語らないこと』は長編第2作。



#### ■ 天願大介 Daisuke Tengan

1959年東京生まれ。出版社勤務を経て、1991年『アジア・ビート/アイ・ラブ・ニッポン』で長編デビュー。障害者プロレスを追ったドキュメンタリー『無敵のハンディキャップ』(93)が大きな反響を呼ぶ。他の監督作に『世界で一番美しい夜』(08)、『デン德拉』(11)など。脚本家としては、父・今村昌平の『うなぎ』(97)、『カンゾー先生』(98)などの共同脚本を手がけ、三池崇史監督『十三人の刺客』(10)で菊島隆三賞を受賞。日本映画大学教授。

#### ■ 石坂健治 Kenji Ishizaka

日本映画大学教授/東京国際映画祭プログラミング・ディレクター

**3/15 土 13時00分 開演**  
日本映画大学・新百合ヶ丘キャンパス 4階大教室  
[入場無料/全席自由席/定員100名]

※12時30分より受付を開始します。当日、直接会場へお越しください。

※満席の場合はご入場いただけませんのでご了承ください。

※新百合ヶ丘キャンパスには、エレベーターがありません。4階までの移動で介助が必要な方は、事前に「講座事務局」までお電話にてご連絡ください。

## お問い合わせ

日本映画大学 映画・映像アートマネジメント人材養成講座 事務局

〒215-0014 神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1

Tel: 044-328-9123

[www.eiga.ac.jp/exchange/art\\_management/](http://www.eiga.ac.jp/exchange/art_management/)

